

(精神科専門) 訪問看護ステーション ラポールちかもり

所長 杉村 多代

活動状況

2020年は、7月から非常勤が1名、10月から常勤が1名増えるなど、常勤換算では5.8名と増加したことから新規利用者の受け入れがスムーズにできるようになった。また、主任昇格人事によりステーション開設以降初めて管理者二人体制となった。

しかし、特記すべきは、何といたっても新型コロナウイルス感染症の影響である。高知県では2月末に最初の感染者が発表されたが、当ステーションでも3月から新型コロナ関連のキャンセルが出始めた。感染対策として看護師の体調確認・感染予防行動、事業所や車輛の消毒、利用者にはステーションの方針を示し利用者やご家族へのお願いとして書面でマスクの着用・3密を避けるための換気等を伝えつつ訪問を継続した。感染の波のたび、キャンセルが多くなることもあった。研修等についてもネット上で受講するなど、初めてのことに互いに戸惑いながらも、徐々に感染予防に慣れてきた1年だった。

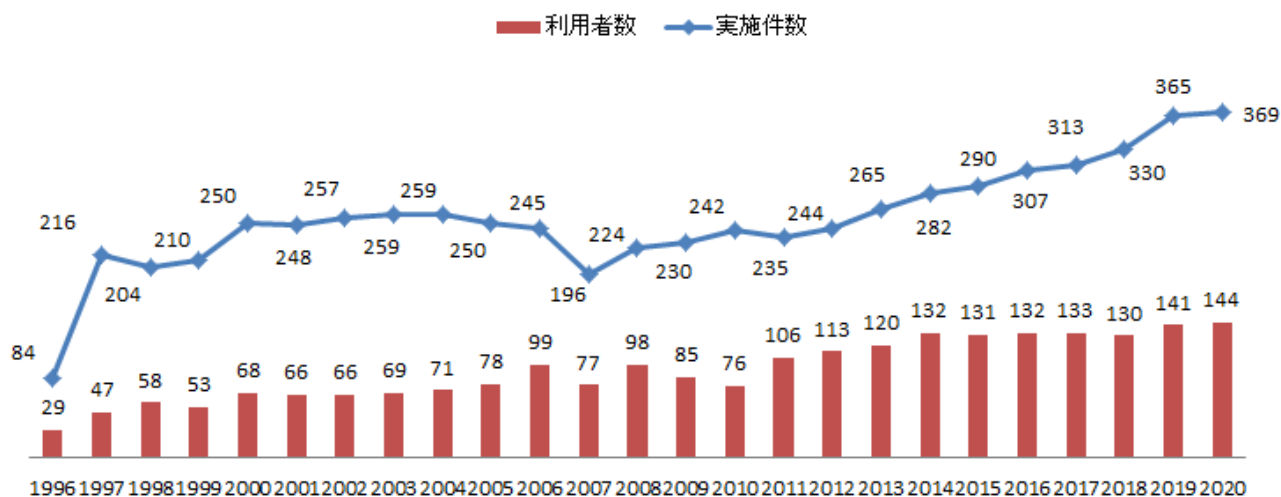
このように新型コロナウイルスの影響もあり、利用登録者数は月平均144名で、昨年と比べると3名増となり、訪問件数は365名から369名と微増した(グラフ1)。

新規利用者は昨年と比べて2名多い33名で、終結や中止した利用者25名(昨年比△6名)だった。珍しく、利用者本人の希望から開始する人も2名ほどいた。利用者の殆どは病院からの依頼だが、介護支援専門員からの相談もあった。終結等の一番の理由は昨年と同じく本人が必要を感じないためだが、約3割と昨年と比べて2割ほど減っている。次に多かったのは施設等に入所したためで2割を占めた。高齢の利用者の中には老化に伴う独居生活への疲れも影響しているようである。また、残念ながら死亡したことでの終結もあった。

キャンセル件数は376件で、ほぼ昨年と変わらず、事前連絡・事後連絡の割合も昨年同様、事前が59%、事後は41%であった。この中には新型コロナウイルスの影響も入っている。また、訪問してもほとんど不在であるが、毎回訪問を続けた人もいる。会うことができなくてもメモを残し、それを読んでくれている気配を感じることで命をつなぐ人もいることから、たとえ訪問看護が実施できなくとも継続している。

スタッフ増加および管理者が増えたことで運営面での見直し等、これからも看護の質を上げ利用者・ご家族とともに一緒に人生を歩んでいきたい。

グラフ1利用者数・実施件数 年間平均推移



学術発表・講演会等

なし